

● 第1回

◆日時：2018年2月10日(土) 13時30分～15時30分

◆参加者：中高生 23人 (欠席1人)

◆ミーティング内容

新庁舎の概要や配置プランから、庁舎をどう利用したいか、様々な目線で考えていく。
Q1.自分達だったら、どう利用したいか Q2.他の年代なら、どう利用したいと思うか

【WS の手順】

①中高生の立場から新庁舎をどう利用したいかを考える(20分)

今の自分達だったら、どう利用したいかを考え、紙に書き出し、図面に貼っていく。

②他の年代を想定してどう利用したいかを考える(20分)

他の年代のことを想像するのは難しいので、下記のような条件を元に、特定の人を設定して、その人に必要だと 思われる場所や行動を考える。

③発表(20分*1グループ5分) どんな利用の仕方が出て来たか、傾向を5分程度で発表する。



◆結果

まちの人物イメージカード

・A班 38枚 ・B班 39枚 ・C班 24枚 ・D班 43枚
→合計144枚

出たカードを集約し、アトリエカフェが分類

「災害」→10枚	「お店」→9枚
「情報発信」→4枚	「リラックス」→14枚
「イベント」→35枚	「学習」→13枚
「交流」→11枚	「庁舎利用」→3枚
「スポーツ」→11枚	「福祉」→3枚
「日常利用」→22枚	「その他」→9枚

参照



◆まとめ

庁舎をあまり利用したことがない中高生にとって、自分たちの経験だけで庁舎利用のことを考えるのは難しいことです。今回は庁舎のことに縛られすぎずに、市民にとって「あったら良い場所」「あったら良い機能」を思うがままに書いてもらいました。発想の手助けとして、「まちの人物イメージカード」と「シチュエーションカード」を用意し、どういった人がどういう風に利用したいか、をできるだけ具体的にだしてもらい、さまざまな意見が集まりました。終始賑やかに進み、活発に意見が出たところを見ると、以前よりも庁舎のことに興味を持ち、完成が楽しみになることにつながったのではないかと思います。

● 第2回

◆日時：2018年3月10日(土) 13時30分～15時30分

◆参加者：中高生 23人 (欠席1人)

◆ミーティング内容

第一回で出たまちの人物イメージカード計144枚を12のカテゴリにまとめた。今回はそのカテゴリごとにテーブルを分け、8グループがテーブル間を移動しながら、まちの人物イメージカードから庁舎の空間を考えるワークを行った。前回他のグループの人が書いたカードにも目を通し、いろんな人物のことを考えることで庁舎の使い方やあると良い機能などをより具体的にイメージする内容とした。

【WS の手順】

①カテゴリで分けられた12のテーブルをグループで回り、そこに置かれている「まちの人物イメージカード」に目を通す。

②カードに描かれている人が一体どんな動線で庁舎を利用するかを、配置図を参考にしながら考える。

③それぞれのカードについて、動線などから見えてくる空間に必要な要素や気づきを「空間イメージシート」に書き込む。

④各グループ、テーブル間を移動し書き込んだ複数の「空間イメージシート」を、発表に向けて一枚の配置図にまとめる

⑤発表、まとめ



◆結果

空間イメージシート 計51枚

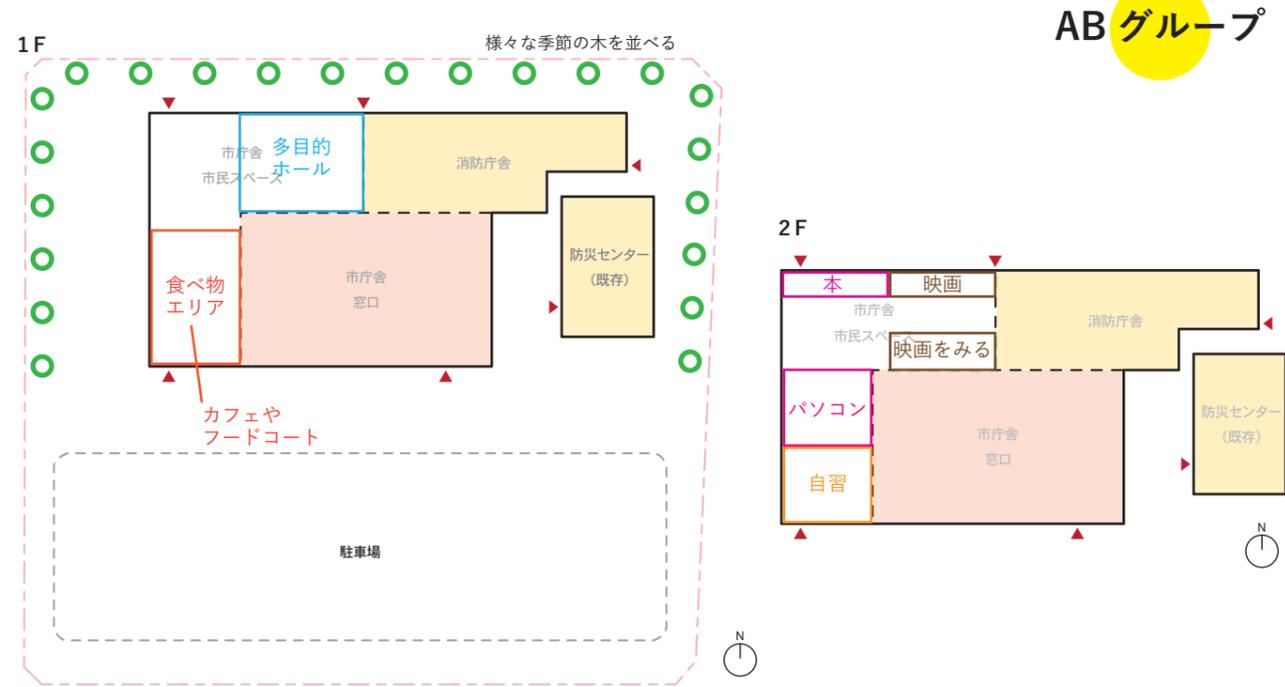
・災害 5枚 ・情報発信 4枚 ・イベント 3枚 ・交流 4枚 ・スポーツ 8枚
・日常利用 3枚 ・お店 8枚 ・リラックス 4枚 ・学習 4枚 ・庁舎利用 1枚
・福祉 3枚 ・その他 4枚

空間イメージシートに書かれた提案、要望などコメント数 → 114個



◆まとめ

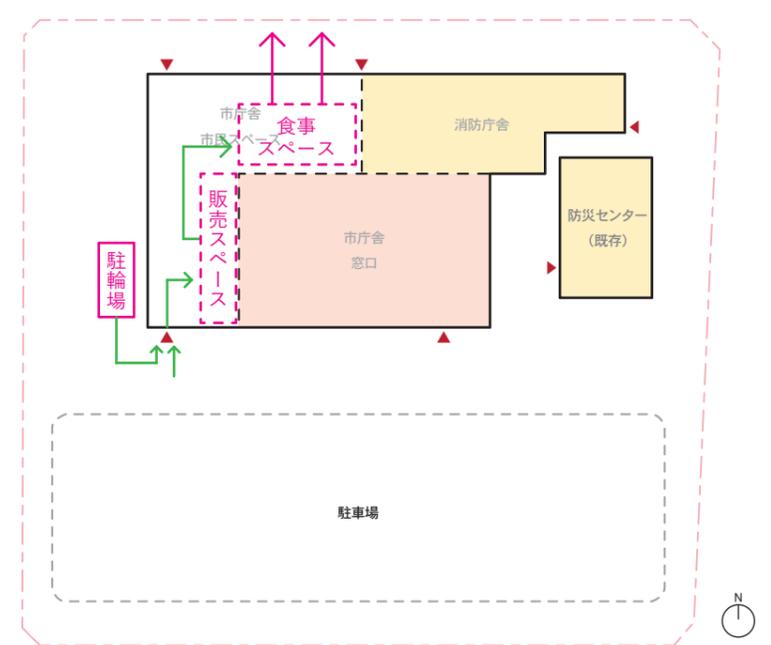
前回とグループを変え、くじ引きで少人数グループを形成したので最初は固い雰囲気でしたが、慣れてくると想像力豊かに庁舎のことを楽しく真剣に考える中高生の姿が印象的でした。たくさんの「まちの人物イメージカード」を見渡し、その人物の動線から必要な空間や機能を考える、という、複雑なワークでしたが、それを超える想像力でたくさんの提案が生まれました。最後にいろんな人物の動線をグループで1つの配置図にまとめるという作業は、設計を疑似体験してもらいたいというねらいもありました。中高生は苦勞しているように見えてましたが、発表時にはどこも綺麗にまとめてあり、とても感心させられました。



ABグループ

コンセプト：
「1階はにぎやか、2階は静かに」

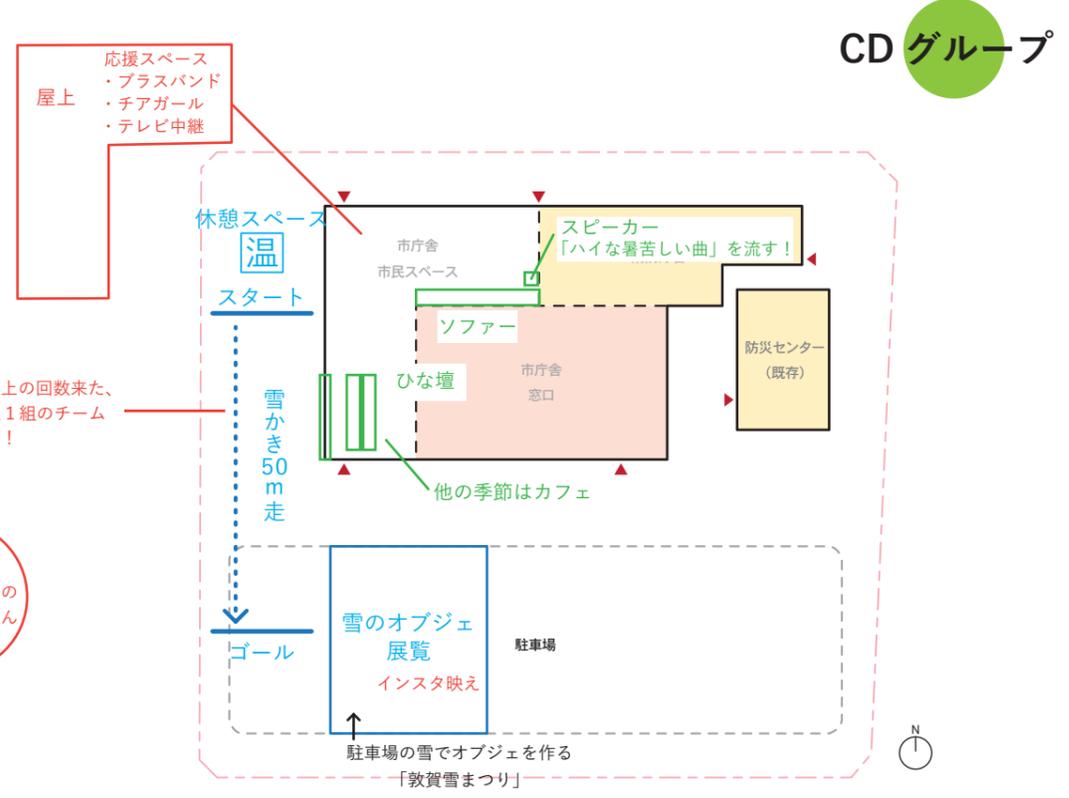
1階…食べ物エリアとしてフードコートを設置
2階…自習やPCの部屋、図書館や映画館の機能。防音もしっかり。
周辺エリア…散歩が楽しくなるように、季節ごとの木を並べる。



EFグループ

コンセプト：
「カフェみたいな落ち着けるスペース」

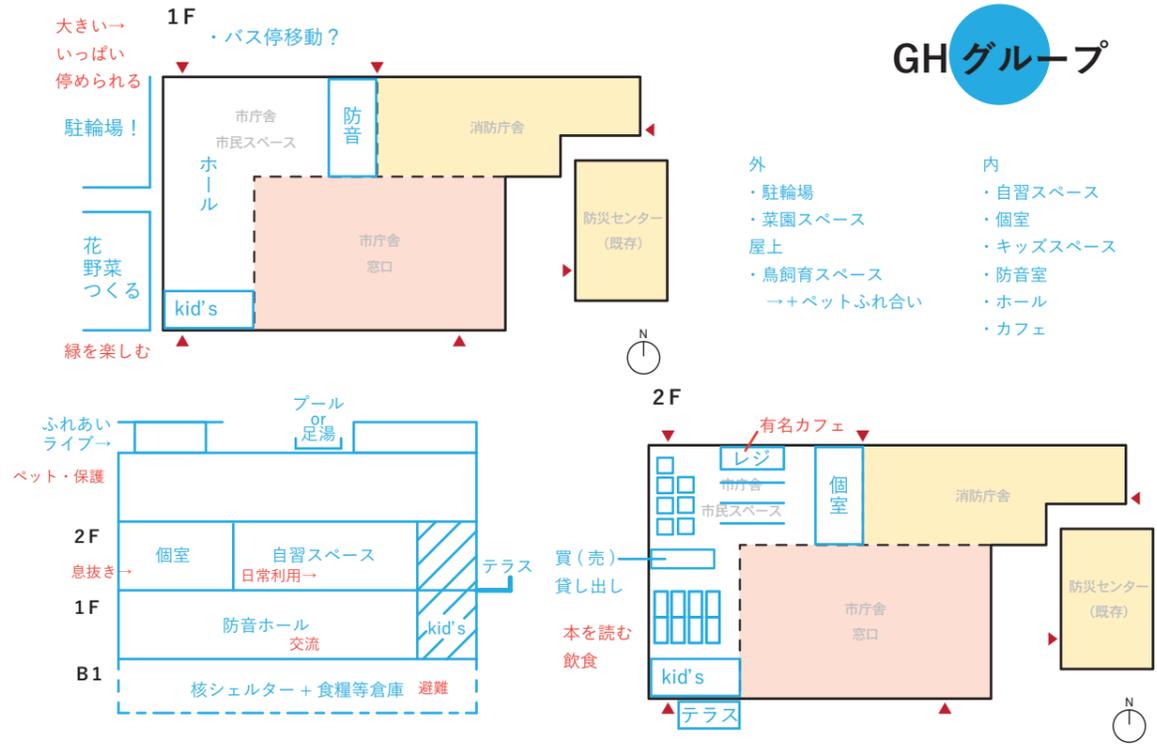
1階…販売や食事スペース、外の景色が見られるようにガラス張り



CDグループ

コンセプト：
「敦賀の人を健康に」

1階…ジム
冬…雪かき50メートル走や雪のオブジェをつくるなど、敦賀の気候を活かしたイベントを実施。



GHグループ

コンセプト：
「提案を全部詰め込みました」

外…大きな駐輪場、夏は緑を楽しめる
1階…防音スペース、うるさくしても大丈夫、キッズスペースは天井の壁を抜く
2階…カフェ、本の貸し出し、大勢で勉強できる
地下1階…災害時に核シェルターとして利用できる
屋上…屋根のあるスペース、鳥やペットに触れ合える、プールや足湯

学生によってまとめられた意見は、様々な来庁者像をピックアップして考えられたもので、市庁舎にある市民スペースの使われ方の一例と言えます。これらの例を手掛かりとして、学生たちのメッセージを以下にまとめました。新庁舎に備えるべき「市民スペース」のあり方として、今後の計画の参考とします。

① 「ふだん使いの庁舎」 ～滞在型庁舎～

気軽に利用できる滞在型庁舎の存在は、市民の日常的な豊かさを高めます。学校帰りに寄りたくなる庁舎、仕事帰りに一息つきたくなる庁舎、大切な人とゆっくり時間を過ごせる庁舎など、日常の活動の中に溶け込んだ飾らない市民スペースのあり方が、様々に提案されました。新市街地におけるコミュニティセンターとして、長時間滞在したくなる庁舎像について考えられました。

② 「とくべつな日の庁舎」 ～頼りになる庁舎～

週末など庁舎がクローズの時間帯、多様なスペーシングにより市民のもつ様々な活用要望に対応できる庁舎は、市民に祝祭的な豊かさをもたらします。休みの日、あそこに行けば何かが催されている、誰かと会える、新しい自分を発見できる、彩を与える庁舎像が提案されました。イベントだけでなく、災害時も含めて市民に認知され活用される市庁舎像が、模索されました。

③ 「発信してつなげる庁舎」 ～幸福度を高める庁舎～

啓発性の高い情報発信源としての庁舎は、市民の生涯学習意欲を刺激します。敦賀市民と市外・海外の人たちとの出会いや交流のきっかけとなる庁舎像が様々に提案されました。また、民間企業等との連携や地元ボランティアガイドなど、敦賀に暮らす市民が活躍できる仕組みも考えられました。

滞在型の庁舎

アクセスしやすい
駐輪場

飲食できる
気軽な場所

屋上や屋外の
積極活用

静かな落ち着く
スペース

冬場に楽しめる
市庁舎

アクセスしやすい
イベントスペース

頼りになる
庁舎

災害時の
避難受入れ

防音・遮音
できるスペース

窓口と独立した
市民利用スペース

防災意識の
啓発

敦賀ツアー
ガイド

ボランティア
民間連携

幸福度を
高める庁舎